

大阪観光局(DMO)の推進に関するトップ会議 議事概要

日 時：令和4年3月25日（金）15:00～15:45

場 所：大阪商工会議所7階 国際会議ホール

出席者：吉村 大阪府知事、松井 大阪市長、永藤 堺市長、尾崎 大阪商工会議所会頭、
松本 関西経済連合会会長、古市 関西経済同友会代表幹事、
福島 大阪観光局会長、溝畑 大阪観光局理事長

議題： 国際観光文化都市・大阪をめざして

【挨拶】

■福島 大阪観光局会長

- 観光業界はコロナ禍で大打撃を受けてきているが、2022年を反転攻勢の年としていけたら。ウィズコロナ・アフターコロナを見据えながら、2025年に向けホップ、ステップ、ジャンプとなるよう取り組んでいきたい。

今年は中之島美術館の開館をはじめ、大阪公立大学が開学、また、森之宮に新キャンパスができる。来年はG7の開催が見込まれており、秋にはツーリズムEXPOジャパンの開催、中之島には未来医療拠点ができる。また、2024年にはIGLTA総会の誘致や、うめきた2期のオープン、2025年には関空のリノベーションが終わり、万博が開催される。地元として、また、いち市民としても機運を盛り上げていきたいし、これらを通じて観光が活性化できれば。

今日からまん延防止重点措置が明け、経済活動が再開される。水際対策も緩和の動き。インバウンドの復活は2023年以降になると思われるので、まずは国内観光誘客。大阪には食、エンタメやスポーツ、自然など世界に誇れるコンテンツが多数あるので、ブラッシュアップし、情報発信しながら、今後の需要回復に備えていきたい。

「また大阪へ行きたい」と思ってもらえるよう、府・市・経済界とともに取り組んでいきたい。

MICEは2025年頃の開催誘致が主戦場となっている。万博をてこに、オール大阪で誘致に取り組んでいきたい。また、IRはこの秋に区域整備計画が認定される見込みであり、大きな一歩となると考えている。

皆さんと一緒に頑張っていきたい。

【資料説明】

■溝畑 大阪観光局理事長

（資料に沿って説明）

【出席者からの主な意見】

■尾崎 大阪商工会議所会頭

- 観光は平和産業なので、世界で紛争が起こると委縮してしまう。早く紛争の問題を

解決し、世界の正常化が図られ、観光が復活してほしい。

- 2025年の大阪・関西万博は一つの節目であり、そこに向けしっかりと準備をすることが大切である。大阪商工会議所は、USJならびに大阪観光局と共に、昨年12月よりコロナ禍での「消費者の意識や行動変容」を踏まえた、「国内消費者の意識や行動」に関する調査を開始しており、それに基づくマーケティングの実施を検討している。その成果を見えるものとし、2025年に向け活用していきたい。
- 観光が大阪の都市魅力向上につながり、「大阪で住みたい、働きたい、学びたい」という人々を増やすことで大阪の都市全体が活性化する。そのための手段として、観光の役割は重要である。バーチャル大阪においても、万博以外で大阪そのものを知ってもらう仕掛けが必要である。プラットフォームに世界中の人々が参加することで、バーチャル大阪が活性化し、リアルの大阪も活発になればと考えているので、大阪商工会議所として連携して取り組みたい。
- 「食創造都市 大阪推進機構」を2020年1月に立ち上げ、国際的な食のイベントを計画していた。残念ながらコロナの影響で開催できなかったが、万博に向けてリスタートしたい。その準備として、大阪の食を支える料理人を育て、大阪には魅力のある料理人がいることをアピールしたい。具体的には、シェフ達の学びや啓発の場である「シェフズアカデミー」、次世代を担う和洋シェフ達のコラボレーションによる「ポップアップレストラン」等を行っている。また、富裕層インバウンド誘致に向け、「大阪の食体験テストツアー」等を行い、大阪の食のブランディングを進めたい。ガストロノミー・ツーリズムという点では奈良県も取り組まれているので、他地域との連携も検討したい。食に関しても、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

■松本 関西経済連合会会長

- 観光需要回復と大阪・関西万博に向けた取組みを着実に進めていただいていることを心強く感じた。私からは2点。
- 一点目は、大阪・関西万博を見据えた、大阪観光局と関西観光本部との連携強化をお願いしたい。大阪観光局と関西観光本部とは、関西万博を盛り上げるために活動を進めていると聞いている。関西観光本部では、「関西ツーリズムグランドデザイン2025」を策定した。大阪・関西は「The Origin of Japan, KANSAI」ということで、細かいことがたくさん書かれてるが、これらを一つ一つ実行していくことで、大阪・関西のツーリズムは、アフターコロナに向けてこれまで以上にやっていけるなという計画になっているので一度ご覧いただきたい。中には、大阪・関西を実際に周遊していただくためのアクションプランも記載している。このグランドデザイン策定会議には、溝畑理事長も入っていただき、そのアイデアも入っている。大阪観光局と連携していきたいと思っているので、よろしく。
- 二点目は、2022年度に京都へ移転する文化庁との連携強化について。文化庁はこれまで文化財保護に努めてきたが、今後は文化財をベースにした観光、まちづくり、国際交流などの文化振興を進めていこうとしておられる。大阪観光局では、食文化や地域の歴史・文化コンテンツ開発に取り組んでいこうとされているので、文化庁とも連携した取組みを進め、観光文化都市を作っていければよいのではないかと思います。

我々もぜひメンバーに加えていただき、協力して盛り立てていきたい。文化庁移転を機に関西一帯で盛り上げていくためにもよろしく。

■古市 関西経済同友会代表幹事

- 新型コロナウイルス感染症の影響で観光業界の皆様も大打撃を受けている中、大阪観光局にて、「世界最高水準・アジアNo.1の国際観光文化都市」という高い目標を掲げ、様々な準備をされていることを聞き、心強く思う。私からは2点に絞って申し上げる。
- 一点目は、大阪をハブとする広域周遊ルートの創出について。アフターコロナを見据えて、従来のような特定地域へのインバウンドの集中・混雑を避けることや、各都市の様々なコンテンツを結び付け、長期滞在型・高付加価値型の観光を創出していくことは、非常に重要な視点だと思っており、是非とも推進していただきたい。関西経済同友会としても、広域観光委員会を新設し、地域を結び付けた観光の意義とあり方を検討しており、今年度、提言として発表する予定なので、とりまとめが出来たら連携させていただく。
- もう一点はユニバーサルツーリズムにおけるデジタル活用の推進について。大阪・関西万博を含め、今後は外国人のみならず高齢者や障がい者など、様々な方が大阪を訪れるが、それらの方々に安心して楽しんでいただける環境整備の必要性が益々高まっている。サイン表示の改善などを挙げていただいているが、こうした既存インフラの改善だけでなく、デジタルの積極的な活用も重要だ。具体的には、円滑な移動を促進するMaaSや、多言語の音声認識サービスなど、多様な方々に楽しんでいただけるためのデジタル化の推進が重要であり、様々なアイデアを持つ、ベンチャーやスタートアップの活用についても考えていただければと思う。例えば、株式会社ミライロは、ユニバーサルデザインを手がけ、障がい者手帳をデジタル化する技術を持っている。そうした技術を使いながら、多くの方々に楽しんでいただける万博や観光を推進していきたい。

■松井 大阪市長

- 観光業界は厳しい状況にあり、インバウンドの回復にはまだ少し時間がかかるので、国内観光客をいかに呼び込んでいくかが重要と思っている。大阪観光局には、都市間競争において大阪が選ばれるよう、様々な取り組みやプロモーションをお願いしたい。
- 興味を持ったのは、ペットツーリズム。国内でも、ペットとともに旅行したいという意向が大きいと思うが、国内全体で見たときにペットとともに旅行できるところが少ないので、今の間に準備をしていけば、国内旅行需要喚起につながっていくのではないかと。
- 我々も、令和4年度国内旅行需要を喚起するため、府市で「いらっしやいキャンペーン」などの様々なキャンペーンを行っていくつもりなので、実施にあたり、大阪観光局とともに、いかに大阪の観光を盛り上げていくか、インバウンドが厳しい中で国内旅行需要の取り込みに全力を尽くしたいので、よろしく願います。

■永藤 堺市長

- ・ 観光DXに大いに期待している。データに基づく政策立案が可能となればより効果的な施策につながるうえ、各自治体の事業とも連携することで、受け入れ側も、やみくもに事業を行うのではなく、根拠を持って効率的に取り組める。観光局には、希望する自治体へデータを広く提供していただくなど、大阪観光局の取組みが府内市町村の施策向上につながれば、大阪観光局の意義をよく分かってもらえるのではないかと。
- ・ 二点目は、世界お茶 week。「お茶」を取り上げてくれているのはありがたい。文化と書いていただいているが、茶の湯のわびさびなどの美意識や一期一会といった精神性は、現代日本に大きく影響しており、また、世界から注目される清潔さや日本人の礼儀正しさなどのルーツを感じていただける、まさに「origin」だと思う。武力で天下統一が成し遂げられた背景に茶の湯があったというのは興味深いと思うし、また、茶道具には文化財としての価値を有するものもあり、茶道具を所蔵している美術館なども大阪に多数ある。ぜひ、文化の切り口で発信していただくとより有益だと思う。その拠点は豊臣秀吉に代表される大阪城、また、千利休は堺の生まれであり、大阪市内中心部と南大阪をつなぐことで関西の観光の大きな軸ができると思う。

■吉村 大阪府知事

- ・ 大阪観光局においては、コロナで厳しい状況の中、観光事業者支援に取り組んでいることに感謝。今年度の予算について、府市一体で、観光事業者を支援するための予算を確保しているところ。執行するにあたっては、医療と両立させなければいけないという中で判断しているところ。そういった観点から、適切な時に適切な支援策を行っていくつもり。
- ・ インバウンドについては、先行きが見通しづらいところがあると思う。大阪・関西の魅力を見ると、コロナ前のインバウンドの伸びを見れば、力があることは明らかであり、コロナが落ち着けば日本、大阪に観光客が来ることは間違いない。また、インバウンドが動くときには、LGBTQ ツーリズムは潜在力のある分野だと思う。シカゴでLGBTQ のパレードを見かけたが、国内ではないような取組みが行われており、潜在力があるところだと思う。
- ・ いずれにしても、今はインバウンドよりもマイクロツーリズムに力を入れる時期だと思っている。インバウンド隆盛期にあっても、国内における旅行消費の75%は日本人観光客であって、そういった意味でも国内観光客、いまはコロナで動きにくい、落ち着いてくれば、旅行したいという、がまん需要がかなりあると思うので、マイクロツーリズムに力を入れることが重要。
- ・ 食やスポーツ、歴史など様々な魅力があるが、とりわけターゲットとして、もっと高齢者に力を入れていってもよいのではないかと。65歳以上の高齢者、今は年度替わりの時期なので退職される方と話をしたりする機会があるが、皆さんとても元気であり、まだまだ働けるといふ元気な方がたくさんおられる、コロナの感染状況を見ながら、こういった方々をターゲットとしてマイクロツーリズムで取り込んでいき、コロナを乗り越えた後にはインバウンドに注力していくというロードマップが必要ではないか。これからも行政として、観光局と協力しながら、しっかり対応していきたい。

■溝畑 大阪観光局理事長

- 皆さんからもっと意見をいただきたいが、時間が来てしまった。この度いただいた意見を踏まえながら、「国際観光文化都市大阪」を目指して取り組んでまいりますので、ご支援ご協力よろしく。

以上